



# 名古屋いのちの電話



写真 文珠幹夫（社会福祉法人武田塾協力）

おてんき

晴れの日

何でも出来そうで思わず楽しくなって  
大声で笑ってしまった

雨の日

何だかとてもつまらなくなって  
こっそり泣いてしまった

くもりの日

静かに考えたら

こんなことに影響されていることが  
ばかばかしくなって腹がたった

晴れたりくもったりの日

どうでもよいことは  
そのままにしておいて

あしたを待つことにした

鈴木冴子  
詩

# 名古屋いのちの

## 社会福祉法人愛知「い 記念式・

### 祝 辞

愛知県知事 鈴木 礼治

本日ここに名古屋いのちの電話開局5周年並びに社会福祉法人愛知「いのちの電話」協会設立記念式が行われるに当たり、一言お祝いのことばを申し上げます。名古屋いのちの電話が、昭和60年に開局されて以来満5年を迎えられ、皆様方の御熱意と御努力によって着実にその成果をあげてまいられましたことは、誠に喜ばしい限りであり、心から敬意を表する次第であります。

今日では、急激な高齢化と核家族化の進行、生活の質や精神的な豊かさを求める県民の志向の増大など社会環境が大きく変化している状況の中であって、世の中が経済的、物質的に恵まれても、人知れず悩み精神的危機に直面し、助けと励ましを求めている人々がたくさんおられる事も事実であります。

貴協会がこれらの人々に対し、電話等による相談に心から対応し、健全な社会人としてその後生活することができるように援助されていることは、社会にとって誠に意義深いものと存じております。

このいのちの電話が、地道に活動を続けられまして、都会の砂漠のオアシスとなり、人が、人として生きることができ、互いに助け合い励ましあえることができる世の中になるなら、県民にとりまして何よりも幸せでございます。

最後に貴協会のますますの御発展と皆様方の御健勝を心からお祈り申し上げまして、私のお祝いのことばといたします。

本日は誠にありがとうございました。



## 電話開局五周年

### のちの電話」協会設立 感謝会

1990年6月30日  
於 王山会館

### 祝 辞

名古屋市長 西尾 武喜

本日は、名古屋いのちの電話開局5周年、さらには、社会福祉法人愛知「いのちの電話」協会の設立という重ねてのおめでたい日でございます。心よりお祝い申し上げますとともに、これまでの関係者の方々のご努力に敬意を表する次第でございます。

さて、ここ名古屋に「いのちの電話」が誕生して以来、大変多くの方が「電話」を通してさまざまな悩みや苦しみを克服し、生きる希望や気力を見い出されたと同っております。物質的には豊かになった社会の中で、一方では核家族化の進展により、家庭、地域社会における人間関係が希薄化し、孤独と不安が高まるなど、私たちをとりまく心の環境は決して豊かとは言えません。

こうした中で、悩みをもつ人々の心を開き、着実に成果を上げてこられた皆様方のボランティア活動は、地域社会に「お互いがよりよい隣人になろう」とする心を、成してきたと思っております。

私も行政に携わる者といたしましても、来るべき21世紀に向け、子供からお年寄まですべての人々が、安心して、生き生きと暮すことができるまちとなるよう、各種施策の実現に全力を注いでいるところでございます。

今後とも、皆様方のご活躍により、悩みをもつ電話が、輝きを持つ電話にかわり、また、愛知、「いのちの電話」協会の飛躍を祈念いたしましてお祝いのことばとさせていただきます。

### 祝 辞

名古屋商工会議所 会頭 加藤 隆一

名古屋いのちの電話開局5周年ならびに社会福祉法人愛知「いのちの電話」協会設立の記念式、感謝会が開催されますことを先ずもって、心よりお慶び申し上げます。

名古屋いのちの電話は、昭和60年7月に開局され爾来、さまざまな悩みをもつ人々の電話による相談に応じ、不幸な結果を未然に防止されてまいられましたことは、偏えにボランティアの方々を始め、関係者の皆様方の日夜をわかたぬご尽力の賜物と存じ、深く敬意を表する次第でございます。

ご高承のとおり、今日わが国は社会生活において物が豊かになった反面、心の豊かさや精神的なたくましさといった点で欠けることが多方面に生じてきており、古くからの日本の美点が失われてまいっております。

かような社会の趨勢にありますとき、このいのちの電話の活動を恒久的に維持するために、多数の方々のご協力のもとに、このたび念願の社会福祉法人として益々活発に活動されますことは、まことにご同慶にたえないところであります。

一層複雑化してまいる社会にあって、どうか今後とも、生きる希望や気力を失いつつある人々に対して、勇気をふるって再び生きぬいていくために、適切な援助をいただきますよう祈念いたしまして、簡単ではございますが、私のご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にお目出度うございました。

## 六年目も着実な歩みを

一口に五年といっても、それはけわしい長い道のりでした。。私はこの社会活動の初めのころは、関わりがなく、いのちの電話の創設の苦しみは知らないのです。しかし、あの聖霊病院の建物の一室で行われていた初期、「よくもこのような仕事を」と、関係者一同に頭の下がる思いがしました。生きる希望を失った人、失いかけた人たちに、声で支えるという仕事に、相談員の皆さんは、時に無力感を強く抱かれたに違いありません。

しかし、キリスト教関係者をはじめ、多くの人たちがこの運動に心を寄せ、社会福祉にかかわるいろいろな団体も外側から支えているということで、どれだけ励みになったことでしょうか。人生の試練を一人で悩むのではなく、電話という「機械」ではありますが、それを通じて心に光をともしてくれる仲間、道連れがいるということは、どれだけ狭くなった心を広げてくれるか、測り知れないものがあります。

その仲間、道連れとは相談員の方々です。ボランティアとはいえ、講習会に参加し、きびしい訓練を受けて初めて認定され、電話を通じて悩む人たちと向かい合うのです。そのために講習会の費用を自分で負担し、自分の時間を奉仕にあてているのです。東海三県下からこの運動に参加してくださる人たちがいなかったら、わたしたちの活動は成り立ちません。五年間、ひたすらに続けてこられた献身に心から敬意を表します。

自分のことだけを考えるミーイズム。昔の言葉でエゴイズムが目立ついまの時代に、他の苦しむ人たちに思いをはせ、力の及ぶ限り生きる支えとなる人たちを、忘れてはならないと、いつも自分に言い聞かせています。

数年前になくなった名古屋市千種区の曹洞宗善篤寺住職で道元禅師の「正法眼蔵」の紹介者、中村宗一師は、私とのインタビューが終ったところで、一筆色紙に書いてくれました。「愛語廻天」。「これは道元禅師の精髄ともいべき言葉で、いつくしみのこもった言葉は天をも回転させるということだ」と説明された話を心に刻んでいます。いのちの電話がまさにその実践です。六年目も着実に歩みましょう。

(愛知「いのちの電話」協会理事 西沢 信正)



## 電話相談の展望

名古屋の地に「いのちの電話」という灯台の火が灯されて、満5年が経過しました。ともかく5年間灯し続けて来たことを、素直に喜び、分かち合いたいと思います。

交通戦争といわれる交通事故による死者数の2倍近くの人々が自らの命を絶っている現実があり、その数は氷山の一角とも云われています。確かに現代の社会では、非常に多くの人々が何らかのストレスによって「苦しい」と自覚していると云われています。特に、家庭—地域—職場—のつながりがなく、だれでもいつでもそれらのどれかから孤立してしまう可能性が高まっています。

こういう人々にとって、暗闇に浮かぶ灯台の存在がどんなに励みになるかは、はかり知れません。

いのちをめぐる広汎な運動は、今年名古屋で開催された第15回自殺予防シンポジウムにおいても、いのちをまもるネットワークの必要性がテーマにあげられていたように、専門機関の連携のみならず、広く市民レベルで受け止めてゆく重要性和可能性が示されています。

私たちいのちの電話の究極の目標は、いのちの電話の不要な社会を作ることかも知れませんが、私たち一人一人がいのちの電話で培ったことを発展させて



夫々の身近な人々、地域の市民活動を通じて広がりを持たせることができるなら、素晴らしいネットワークが築かれてゆくでしょう。

名古屋いのちの電話に集う者が、いのちを愛しむ共通の自覚のもとに、これからも、24時間体制を目指して、したたかに灯台の火を守り続けてゆくではありませんか。

(運営委員 芝原慶次)

### 点滴

人の生きざまは、死にざままで伺い知ることが出来るという▶与えられた人生をどう生きるか、どう生きてきたかは、人それぞれ異なる▶思い通りの生き方が出来る人生もあれば、自分の意志とは関係なく、全く別の力によって考えもしない生き方を余儀無くさせられる人生もあれば、信じきってきた生き方を180度転ずる人生もある▶自分の生きてきた半世紀余りの人生も、思い通りに歩めたわけではないけれど、過去がどうであろうと、今がどうであろうと、残された人生をいかに生きるかによって、自分の死にざまが生きざまを評価してくれるのだらうと思うと、さて、どのような生き方をするのがよいのか、と立ちどまる▶桜の花が短い生命ゆえに、精一杯、生命がけで咲いて、咲ききって、また思いきりよく散らすような生き方もよし、新緑のころの透き通る葉のようなみずみずしい人生がまだ送れるならそれもよし、もえいずる秋のもみじのように、美しいまでに、真っ赤に紅葉して終える人生があるのならそれもまたよし▶ともあれ、残りの人生がどれほどなのかはわからないけれど、今を精一杯生きて、いい人生で終わりたい、素晴らしい人生を送ったと評価される死にざまでありたいと、心ひそかに思うのです▶でも、評価など気にしないで、自分の自信で生きていけたらそれでいいのかもしれない。

S. S

## 第15回全国大会

聖風の精神誌

### 自殺予防シンポジウム名古屋大会開かれる

#### 自殺予防シンポジウムの一年

##### ○テーマを考える

1988年の自殺予防シンポジウム茨城大会懇親会の時、自殺予防学会の斉藤先生から名古屋いのちの電話の長岡先生に「2年後に名古屋で大会を引き受けて戴けないか」というお話があったのが今回の名古屋大会の発端でした。その後、理事会などで承認していただき、1989年8月17日に第一準備会を20人の参加者で開きました。

最初に話し合ったのは会場とテーマでした。記録には次のようなテーマが残っています。「今一度自殺を考える」「自己破壊について」「地域における精神的ネットワーク」「都市化と非行」「若者の自殺と交通事故の関係」その後、数度の話し合いの後「いのちをまもるネットワーク」となったのです。

##### ○組織づくりと準備

全国から300人近い人が集まる大会の運営にはどれくらいの手が必要なのか、とにかく総務・運営・記録・財政・渉外の組織をつくり実行委員会を組織できたのは1989年12月4日でした。

その後、総務委員会ではポスターやパンフレットの作成。運営委員会では分科会の提案・助言・司会者の選定や総合シンポジウム、基調講演の内容などについて準備を進めました。また、大会の基礎となる資金面については、財政委員会の地道な努力で必要な経費を確保することができました。

こうして、30名近くのボランティアの力でなんとか10月13日を迎えることができたのです。

##### ○名古屋大会 参加者 369名

午前中は5つの分科会で地域や職場で精力的に実践をされている提案者から提案がなされ、それぞれの問題について討議が行われました。

青少年の危機とネットワークの分科会では、名古屋ダルク（シンナーや薬物依存の自助施設）の実践報告が注目をあびました。職場の危機とネッ

トワーク分科会では職場での心の健康への取組が話し合われました。家庭の危機とネットワークの分科会では、非行少年の家庭や高齢者を抱える家庭の問題が討議されました。病苦の危機とネットワークの分科会では、精神障害者や高齢者の地域社会でのケアを中心に話し合われました。性の危機とネットワーク分科会では、性の相談の難しさや性教育の必要性が確認されました。

総合シンポジウムでは、各分科会の助言者5人が発言し、「縦の人間関係ではなく、横の人間関係の重要性」や「子育てや高齢者介護で助け合うために井戸端会議の復活」など、一人で問題を抱え込まず、仲間同士で助け合う幅広いネットワークの必要性が強調されました。

##### ○「セカセカ社会を生きる」

基調講演は現代のセカセカした社会の中で、いのちを絶とうとする人々やその周辺に位置する心の病を持つ人々に対してどのような援助が必要なのか、また、援助者としてのゆとりや資質はどうすれば生まれるのか？ということ笠原先生の落ち着いた話し方で、分かりやすくまとめられました。

##### ○懇親会

予想を超える100名近くの参加者が懇親会に参加し、会場は熱気に包まれていました。韓国や台湾からの参加者の挨拶もあり、和気あいあい楽しく会を閉じました。

（日本自殺予防学会員  
自殺予防シンポジウム実行委員 兼田智彦）



## チャリティーコンサート

### 第6回 「員類群式」でってででハ

#### 森下治郎ブラスアンサンブルを聞いて

数えきれないほどの多くの方々の愛とやさしさが一本の電話線に寄せられて「名古屋いのちの電話」が誕生したのが5年前の7月。チャリティーコンサートも6回を数え、今年のコンサートは、社会福祉法人愛知「いのちの電話」協会の設立を記念してのコンサートでもあった。

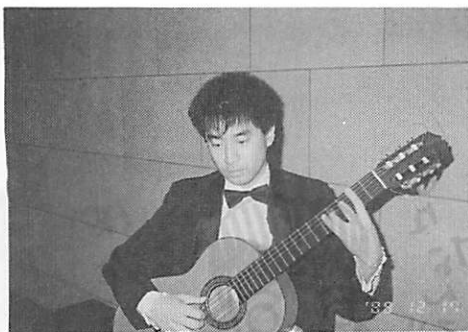
関西に活動の拠点をもち、東京をはじめ各地に演奏活動をくり広げる森下治郎ブラスアンサンブルを迎えてのコンサートは、7月17日、カトリック五反城教会を会場に250名余りの聴衆を集めて開かれた。（猛暑にうだる名古屋の夜にはめずらしく涼風に吹かれる中で催された。）

金管楽器というと吹奏楽団、高校のブラスバンドといった程度の音楽的知識しか持ちあわせない私にとって、このブラスアンサンブルによるバロック音楽へのいざないは、私の心をとらえて離さず、激しくゆさぶり、私の心を天に向けさせるほどの感動、解放となり、喜びとなった。また、ユーモアと機知に富んだ楽器の紹介は、私共に金管楽器を「おお！わが友よ」と思わせるに充分なものであった。このアンサンブルの中に愛知出身の団員がいたこともうれしい。このアンサンブルを迎えるにあたり、足かけ3年にも及ぶ一婦人の熱心があったことをぜひお知らせしたい。以前からこのアンサンブルの音楽性に魅せられていた彼女は「名古屋いのちの電話」が産声をあげる前からの熱心な支援者で、ぜひこの演奏を「いのちの電話のコンサートで！」と話をもってきてくださり、機嫌の熟すのを辛抱強く待ってくださった。彼女のアンサンブルへの思いといのちの電話を支援する思いのハーモニーが、今年のコンサートとして結実したことを感謝と共に心に深く覚えたい。

(清島 須栄子)

### 第7回

#### 高木真介ギターリサイタル



スペイン在住の日本人ギタリスト、高木真介氏のギターリサイタルが、8月25日栄のYWCAホールで開催されました。

氏は神奈川県湯河原のご出身で、13才よりギターを学び、スペイン・マドリッド国立音楽院ギター科を卒業の後、数々のコンクールに入賞、現在、エル・エスコリアル市（マドリッド）のマティス音楽院ギター科教授を努めている、日本では数少ない、国際的な若手ギタリストです。

このリサイタルが、いのちの電話のチャリティーコンサートとして実現したのは、高木氏が少年の頃、本協会運営委員の早川顕一氏（ルーテル希望教会牧師）の教え子であったことがきっかけで、スペイン美人の奥様を連れての里帰りと全国縦断リサイタルを兼ねた忙しい合間に、早川先生への「恩返し」の形でのご協力でした。

当日の来場者は約160名、なかには二日前の新聞記事を見て、すぐに駆けつけた熱心なギターファンもいて、卓越したテクニックと音楽性で、時には繊細に、情熱的に、ドイツバロックから現代音楽、そしてポピュラーミュージックも取り混ぜた、あつという間の楽しいコンサートでした。

チャリティーコンサートがたまたま連続したので、準備等々に大変なお世話をかけましたが、皆様のご協力とご支援で、無事終了いたしました。紙面をお借りいたしましたお礼申し上げます。（長井 潤）



# 窓



“パワーアップした相談員”  
 “オールマイティーの相談員”  
 “相談員の底力”

色々あります



ひとしちに

ホテテテテ

しりこま

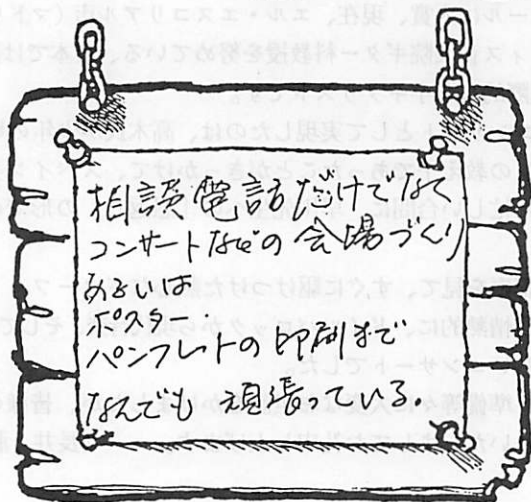


ごんわ相談員から



フツツ

体力的なものまで



相談電話だけでなく  
 コンサートなどの会場づくり  
 めるいほ  
 ポスター  
 パンフレットの印刷まで  
 ほとんど現場にいる。

色々なんですよーい



ほんとオーに

イラスト R. H



## 名古屋いのちの電話日誌

- 7月6日 自殺予防シンポジウム実行委員会  
 9日 運営委員会  
 11日 訓練委員会  
 13日 財務委員会  
 14日 椚山女学園父母懇談会公演  
 17日 第6回チャリティーコンサート  
 (森下治郎ブラスアンサンブル) 開催
- 8月4～5日 訓練担当者会 於横浜  
 20日 運営委員会  
 25日 第7回チャリティーコンサート  
 (高木真介ギターリサイタル)
- 27日 自殺予防シンポジウム実行委員会
- 9月10日 訓練委員会  
 相談員の会、世話人会  
 13日 自殺予防シンポジウム 申込〆切  
 17日 運営委員会  
 20～22日 全国いのちの電話全国研修会栃木大会  
 21日 自殺予防シンポジウム委員長会  
 21日 財務委員会

## 第3回“街頭キャンペーン”

「いのちの電話を応援する宗教者の集い」が、今年も、10月19日に、栄交差点を中心にPRと募金活動が行われた。これは、より多くの市民の皆様、「いのちの電話」を知っていただきたいとの願いを込めて、僧職、牧師、修道女等が、宗教、宗派を超えて奉仕しているものです。



## 賛助会員を募集しています

ご協力をお願いします

いつも資金ボランティアとして会費やご寄付をいただき有難うございます。心から御礼申し上げます。

年間1,500万円の運営資金と共に、法人の基金を10年間で1億円積立ての課題を与えられています。

会員の皆様の旧倍のご支援と共に、会員増加の運動にもお力を添えて下さいますようお願いいたします。

法人となりましたので寄付金の税法上優遇措置が受けられるようになりました。

(1) 法人会費年間5万円以上・10万円

(2) 賛助会費(年間1口)

A 10,000円 B 5,000円 C 3,000円

(3) 一般寄付

(4) 夏期・年末寄付ご自由な金額で結構です

口座名 社会福祉法人愛知「いのちの電話」協会

理事長 相馬 信夫

口座番号 東海銀行大津町支店(普)477029

郵便振替口座 名古屋1-53758

## 【MEMO】

あつがあつ夏でした。この夏は「名古屋いのちの電話」が開局して5周年、法人の認定も受け記念行事一杯の年でした。18号はこれらの特集号として皆様のお手もとにお届けします。

91年度もよろしく愛知いのちの電話を見守りご援助下さい。

社会福祉法人愛知「いのちの電話」協会  
 名古屋いのちの電話

1990. 晩秋

〒461-91 名古屋東郵便局 私書箱第257号

1990年11月1発行

事務局 ☎052-971-5181

郵便振替口座 名古屋 1-53758

発行人 相馬 信夫

相談電話 ☎052-971-4343

東海銀行大津町支店(普)預金口座 477029

編集人 広報委員会